

講義コード	U110200101	科目ナンバリング	011A370
講義名	労働法		
英文科目名	Labor Law		
担当者名	橋本 陽子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 4時限 中央-401		

授業概要

仕事は、現代の豊かな成熟した日本社会において、単なる生計獲得の手段にとどまらず、個人の自己実現の場であり、社会とのつながりを認識する貴重な場となっています。働き方には、雇われて働く場合以外に、自ら起業して事業を行う場合もありますが、現在の日本では、就労者の8割が雇用労働に従事しています。第2次大戦後、安定した雇用社会を実現した日本ですが、将来は、急速に進化するAIによって、ホワイトカラーの仕事の半分以上がAIに取って代わられるともいわれられており、雇用社会は歴史上大きな転換期を迎えています。

この講義では、雇用環境の変化を踏まえつつ、労働法の基本的な知識をわかりやすく伝えるとともに、雇用社会が大きく変わっても、必要とされる労働法の規制は何か、また今までは当たり前だったが、変化を余儀なくされる規制は何かについて、皆さんと一緒に考えたいと思います。

到達目標

労働法の基本的知識を習得し、重要な判例を理解し、事例について法的な検討ができるようになることを目指します。

授業内容

実施回	内容
第1回	労働法の歴史・意義
第2回	労働法の基本概念(「労働者」、「使用者」、「労働組合」、「就業規則」、「労働協約」等)・1
第3回	労働法の基本概念(「労働者」、「使用者」、「労働組合」、「就業規則」、「労働協約」等)・2
第4回	労働法の基本概念(「労働者」、「使用者」、「労働組合」、「就業規則」、「労働協約」等)・3
第5回	労働関係の開始(募集、採用、試用)・1
第6回	労働関係の開始(募集、採用、試用)・2
第7回	男女平等と仕事と家庭の調和(男女雇用機会均等法、育児介護休業法等)・1
第8回	男女平等と仕事と家庭の調和(男女雇用機会均等法、育児介護休業法)・2
第9回	非典型雇用(パートタイム労働、有期雇用、労働者派遣)・1
第10回	非典型雇用(パートタイム労働、有期雇用、労働者派遣)・2
第11回	賃金
第12回	労働時間(時間外労働の法規制、柔軟な労働時間制度)・1
第13回	労働時間(時間外労働の法規制、柔軟な労働時間制度)・2
第14回	年次有給休暇、休職
第15回	今までのまとめ(予備日)
第16回	労働災害(労災保険制度、安全配慮義務)
第17回	配転、出向、転籍(含・企業組織の再編と雇用関係)・1
第18回	配転、出向、転籍(含・企業組織の再編と雇用関係)・2
第19回	労働条件の変更・1
第20回	労働条件の変更・2
第21回	懲戒(懲戒権の根拠、懲戒処分具体例)・1
第22回	懲戒(懲戒権の根拠、懲戒処分具体例)・2
第23回	労働関係の終了(解雇、合意解約等)・1
第24回	労働関係の終了(解雇、合意解約等)・2
第25回	団体交渉(含・日本の労使関係の特徴)
第26回	組合活動
第27回	争議行為
第28回	不当労働行為
第29回	雇用紛争処理制度
第30回	まとめ

授業計画コメント

「2020年度労働関係法規集」(労働政策研究・研修機構編)を購入し、教室に持参してください。

授業方法

基本的に講義形式ですが、重要な論点については、問題演習を織り込みながら、知識をより確実なものにするため、適宜、質疑応答形式で授業を進めます。皆さんの積極的な参加を期待します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に配布された講義レジュメに出てくる法律の条文および各自が選択した教科書の該当頁を読んでおくこと(30分～1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	80 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):20%(おおよその出席状況を加味します。)第1学期(学期末試験):80% 出席点を成績評価にあたり考慮します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の問題文、講評および採点基準については、『法学部の試験』において、詳しく説明しています。

教科書

労働法,小畑史子・緒方桂子・竹内(奥野)寿,有斐閣,第3,2019

労働法,水町勇一郎,有斐閣,第7版,2018

プレップ労働法,森戸英幸,弘文堂,第6版,2019

教科書コメント

他にも良い教科書がたくさんありますので(最初の授業で紹介します)、いずれか一冊は購入し、講義の予復習に役立ててください。

参考文献

労働判例百選,村中孝史・荒木尚志,有斐閣,第9版,2016

労働法,荒木尚志,有斐閣,第3版,2016

労働法,菅野和夫,弘文堂,第12版,2019

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U110210101	科目ナンバリング	011A380
講義名	経済法		
副題	独占禁止法分析ができるようになる		
英文科目名	Law of Economic Regulations		
担当者名	大久保 直樹		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 西2-405		

授業概要

経済法とは、いわゆる独占禁止法を主な研究・教育対象とする法分野である。この授業では、独占禁止法がどのような行為を禁止しているのかを中心に講義する。

到達目標

ある行為が独占禁止法に違反するか、という問いに答えるためには、細かな事実関係が分からなければならない。普通の人(担当教員も含む)には、細かな事実関係を収集し確定することは非常に困難なことが多いから、この問いに自信を持って答えるのは、至難の技である。しかし、この授業を履修すれば、ある行為が独占禁止法に違反するか、という問いに答えるためにはどのような事実関係がポイントとなるか、という点について見当がつくようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:他の法分野との関係・この講義の到達目標の確認
第2回	エンフォースメントの概要, 違反要件の基本構造, 弊害要件総論
第3回	エンフォースメントの概要, 違反要件の基本構造, 弊害要件総論(続)
第4回	弊害要件総論(続)
第5回	市場画定
第6回	反競争性Ⅱ
第7回	反競争性Ⅱ(続)
第8回	正当化理由
第9回	正当化理由(続)
第10回	因果関係, 日本独占法の違反類型
第11回	不当な取引制限
第12回	不当な取引制限(続)
第13回	不当な取引制限(続)
第14回	1学期の復習として、「独占禁止法に関する相談事例集」の最新版の前半を読む
第15回	まとめ
第16回	1学期の復習として、「独占禁止法に関する相談事例集」の最新版の後半を読む
第17回	私的独占・不公正な取引方法の総説
第18回	垂直的制限行為
第19回	他者排除行為(取引拒絶系)
第20回	他者排除行為(略奪販売系)
第21回	他者排除行為(その他)
第22回	優越的地位濫用行為
第23回	下請法, 事業者団体規制, 企業結合規制
第24回	「平成30年度における主要な企業結合事例について」を読む
第25回	「平成30年度における主要な企業結合事例について」を読む
第26回	「平成30年度における主要な企業結合事例について」を読む
第27回	お楽しみ *高校生による授業聴講のため読み切りの授業とする。
第28回	「平成30年度における主要な企業結合事例について」を読む
第29回	質疑応答セッション
第30回	まとめ

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の授業終了時に、次回の予習範囲を指定するので、予習してくる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	95 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	5 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

基本的には学年末試験の成績で評価する。それがわずかに合格点に達しない場合には、毎回の授業時に任意で提出していただくコメントペーパーの内容を勘案する。レポートの提出を求めた場合には、コメントペーパーと同様に評価の対象とする。

評価の大半を占める学年末試験においては、事例問題を出題し、以下の二点を勘案し独禁法的な分析ができるようになったかを評価する。

- ・違反要件についての一般論をきちんと理解できているか。
- ・一般論に照らして、当該事例は独禁法に違反するかどうかを検討できているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーについては、コメントをつけ次の週の授業までにmanabaで公開する。レポートについても同様とする。

教科書

独禁法講義,白石忠志,有斐閣,9,2020

参考文献コメント

- ・授業で参照する資料を、オンラインにアップロードする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U120214101	科目ナンバリング	012A333
講義名	国際政治 I		
英文科目名	International Politics: I		
担当者名	村主 道美		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 西2-301		

授業概要

国際紛争についての基本的な概念や問題を紹介し、紛争や安全について理論的に考えるとともに、一定の手順で国際政治についての小論文を完成させる練習をする

到達目標

ある程度の抽象的な概念を使いながら国際政治を理論的に考えるとともに、指示された方法や条件に従いながら国際政治についての小論文を書いてみる

授業内容

実施回	内容
第1回	国民国家という概念の問題点
第2回	民族の分布と国境
第3回	戦争の歴史
第4回	武器
第5回	抑止力 I
第6回	抑止力 II
第7回	軍備管理と軍備拡張競争
第8回	同盟
第9回	国際組織
第10回	テロリズム I
第11回	テロリズム II
第12回	難民
第13回	人権
第14回	情報
第15回	予備日

授業計画コメント

安全保障や戦争・平和の問題について、色々な事例に共通する要素を、比較的抽象的に論ずる。ゲストスピーカーに1, 2回話をしてもらうことがある

授業方法

映像資料(中には英語のものが多い)などを使用しながらの講義

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業での配布物などを読み、自分なりに考える

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第1学期(学期末試験):50% 試験とレポート レポート:50%(レポート-分析力、議論する力)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Office Hoursなどを利用しながら、自分のレポートの計画や、こちらからのリアクションなどについて聞きにきてほしい

教科書

国際政治の分析枠組,岡部達味

World Politics,Bruce Russett

World Politics: Interests, Interactions, Institutions

教科書コメント

他授業時に指示する。

参考文献

Global Politics – A New Introduction, Jenny Edkins and Maja Zehfuss, Routledge

参考文献コメント

授業時に指示する。

その他

本科目は、1～4年次配当の政治学科授業科目であるが、経済学部経済学科の学生が履修する場合のみ、3～4年次配当となるので注意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U120215101	科目ナンバリング	012A334
講義名	国際政治Ⅱ		
英文科目名	International Politics: II		
担当者名	村主 道美		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 西2-301		

授業概要

国際紛争について、国内、国外の要素がいかに複雑にからみあうかを考えるながら、事例を検討する。ゲストスピーカーを呼ぶことがある。

到達目標

国際政治Iで取り扱った国際政治の理論をある程度の具体的な事例を観察しながら考える

授業内容

実施回	内容
第1回	インドシナ戦争Ⅰ
第2回	インドシナ戦争Ⅱ
第3回	インドシナ戦争Ⅲ
第4回	ルワンダーコンゴⅠ
第5回	ルワンダーコンゴⅡ
第6回	ルワンダーコンゴⅢ
第7回	中東の戦争Ⅰ イスラエル
第8回	中東の戦争Ⅱ 湾岸戦争
第9回	中東の戦争Ⅲ イラク戦争以後
第10回	ラテンアメリカ
第11回	ソ連・東欧の内戦と民族問題
第12回	ミャンマーの内戦と民族問題Ⅰ
第13回	ミャンマーの内戦と民族問題Ⅱ
第14回	将来の戦争
第15回	予備日

授業計画コメント

安全保障や戦争・平和の問題、人権その他人道的問題などの大きな課題の出現する事例を比較的具体的に考察する。

授業方法

講義ときどき討論

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

自主的に学習してレポートの課題で指示されるような、論文を書く方法をも練習する

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第2学期(学年末試験):50% 試験とレポート レポート:50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートの計画、内容やこちらからのリアクションについて、Office Hoursなどを利用して聞きにくるよう

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献

Global Politics_: A New Introduction, Jenny Edkins and Maja Zehfuss, Routledge
The Violent American Century: War and Terror since World War II, John W. Dower

International Conflicts, 1816-2010: Militarized Interstate Dispute Narratives,2018

その他

本科目は、1～4年次配当の政治学科授業科目であるが、経済学部経済学科の学生が履修する場合のみ、3～4年次配当となるので注意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U120236101	科目ナンバリング	012A053
講義名	社会心理学 I		
英文科目名	Social Psychology: I		
担当者名	千葉 涼		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 月曜日 5時限 中央-302		

授業概要

本講義では、政治とのかかわり、特に投票参加に対する心理的要因の影響について学習します。私たちは政治についてどのような仕方考えるのか。なぜ投票に参加するのか/しないのか。どのようにして投票先を選ぶのか。以上のような問いについて、政治心理学や投票行動論の理論をもとに考えていきます。前期では政治についての思考や判断に関する心理学的な概念や理論について主に取り上げます。

到達目標

政治や投票参加にかかわる概念や理論について学び、政治的な事柄について理解し自分なりに考えるための能力を身に付けること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	政治心理学とは
第3回	政治意識とパーソナリティ
第4回	政治的社会化
第5回	社会関係資本
第6回	政治的信頼、政治的有効性感覚
第7回	政治不信とシニシズム
第8回	政治的無関心と政治的無力感
第9回	社会的アイデンティティ
第10回	イデオロギーと党派性
第11回	内集団と外集団
第12回	政治的知識
第13回	有権者の合理性
第14回	政治と感情
第15回	理解度の確認

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業後に内容をおさらいすること。
指示があった場合は事前に文献を読んでくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	100%	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

適宜、リアクションペーパーへのレスポンスをします。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U120237101	科目ナンバリング	012A054
講義名	社会心理学Ⅱ		
英文科目名	Social Psychology: Ⅱ		
担当者名	千葉 涼		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 月曜日 5時限 中央-302		

授業概要

本講義では、政治とのかかわり、特に投票参加に対する心理的要因の影響について学習します。私たちは政治についてどのような仕方考えるのか。なぜ投票に参加するのか/しないのか。どのようにして投票先を選ぶのか。以上のような問いについて、政治心理学や投票行動論の理論をもとに考えていきます。後期では投票行動に関する理論やメディアからの影響について主に取り上げます。

到達目標

政治や投票参加にかかわる概念や理論について学び、政治的な事柄について理解し自分なりに考えるための能力を身に付けること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	投票参加と棄権
第3回	社会学的要因
第4回	政党支持
第5回	政策争点と投票行動
第6回	候補者のイメージ
第7回	メディアと民主主義
第8回	技術の発達と情報環境の変化
第9回	フレーミング
第10回	メディアの議題設定機能
第11回	沈黙の螺旋理論
第12回	エコーチェンバーとフィルターバブル
第13回	ソフトニュースとハードニュース
第14回	選挙と世論調査
第15回	理解度の確認

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業後に内容をおさらいすること。
指示があった場合は事前に文献を読んでくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	100%	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

適宜、リアクションペーパーへのレスポンスをします。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>